

2024年7月30日 長崎大学 高校生公開講座

長崎大学では長崎県教育委員会と連携し、大学の高度な教育・研究に触れる機会や学部選択に関する情報を長崎県内の高校に提供する「高大連携事業」を行っています。その取り組みの1つに長崎大学が高校生向けに開講する公開講座やオープンラボがあり、昨年から「プレパパ・プレママ教室」も参画しています。昨年は高校生6名の参加でしたが、今年は14名が応募してくださいました。

また、同日、長崎市私立高校の養護教諭の11名の参観希望があり、高校生と一緒に参加した頂きました。

=====

今回の講座に参加した高校生は、長崎県内の5つの高校から参加しています。友達同士で申し込んでくれた人もいますが、できるだけ平等になるようにグループを作りました。参加者は男子生徒2名、女子生徒12名でした。そのため、本学看護学専攻の男子学生1名に協力してもらい、女子生徒のみのグループに参加してもらいました。高校生3グループ、養護教諭2グループで学習しました。

プログラムは、出生前診断（NIPTと確認検査としての羊水検査）の基礎知識を学んだあと、自分または自分の妻が妊娠しているとして、検査を受けるか受けないかの意思決定をしてもらい、模擬検査を経験するプログラムです。意思決定の際、同じ説明を聞いて、他の人がどのように感じるかを知ってもらう目的で、グループワークを取り入れています。



初対面でのグループワークは緊張すると思うので、今回は、各グループのディスカッションのファシリテーターを大学院生が担当しました。

NIPT受検については、ディスカッション前の考えでは、受検したい：13名、受検したくない：5名、迷っている：8名で、実際にNIPTの模擬検査を受けた人は14名でした。

羊水検査受検では、ディスカッション前の考えは、受検したい：6名、受検したくない：16名、迷っている：4名でした。最終決定をディスカッションシートに記入していた15名の状況では、模擬羊水検査を受検した人は6名、受検しなかったのは9名でした。

今回の講座の特徴は、参加者の学校が異なること、大人の意見が聞けたことです。ディスカッションのあと、ファシリテーターがディスカッションの内容を発表しましたが、同年代の意見だけでなく、日常生活や仕事、家族関係など人生経験豊かな社会人からの意見が聞けたことが、高校生の選択に影響した可能性があります。

参加者からは、「難しい内容だったが、説明がわかりやすかった」「自分の意見が言いやすく、他の人の意見が聞けたことがよかった」「命を授かったときに、こんなにもたくさん

ことを考えないといけないことに驚いた」「学習のまとめにあった“遺伝情報を知る権利/知らないでいる権利”について、もう少し聞きたかった」などの意見がありました。

皆さんの貴重なご意見をもとに、プログラムを精選していきたいと思います。そして、参加者についても…親子で参加する講座を開講してみたいなと感じました。



文責：森藤 香奈子